

## 課題解決型高度医療人材養成プログラム 取組の概要と推進委員会からの主なコメント

### テーマ①：精神関連領域

		整理番号	4
申請担当大学名 (連携大学名)	京都大学		
事業名	発達症への介入による国民的健康課題の解決		
事業責任者	大学院医学研究科長 上本 伸二		
<b>事業の概要</b>			
<p>本学医学研究科は我が国で早期から自閉スペクトラム症（ASD）の医療に取り組んできたという経緯と、人間健康科学系専攻という部門を有し、精神科リハビリテーションや精神科看護学など医療を広くカバーするとともに多様な医療職を養成しているという特長がある。そのため、ASDの精神生理に精通した教員が、チーム医療の構成員となる医師、コメディカルのほか、公認心理士や養護教諭などの医療関連職の資質向上にあたることが可能である。この地盤を活かし、本事業ではメンタルヘルスの問題の背景にあるASDを的確に診断し、ASDの特徴的な精神生理を理解し、保育、教育、就労、社会生活などライフステージを通じて生じる課題に対し適切に対応し得る高度専門人材を育成するプログラムを提供し、関連分野の専門家の協力を得つつ実施する。このプログラムで育成した人材の輩出により、メンタルヘルスにおける国民的健康課題を解決することを目的とする。</p>			
<b>推進委員会からの主なコメント</b> ○：優れた点等、●：改善を要する点等			
<p>○これまで自閉スペクトラム症（ASD）に取り組んできた実績を基に、本プログラムを通じて、ASD患者の適正を踏まえた長所の発揮を支援する点、また、臨床的問題に加え、司法的視点に関する知識と介入を取り上げている点には新規性がある。</p> <p>○発達症に焦点化したプログラムが、時代の要請に適合している。教育担当者に多職種が配置されており、実現可能性が高い。</p> <p>○各職種が同一の教育プログラム・コースにより自閉スペクトラム症高度専門支援人材養成が行われることは、精神科におけるチーム医療の実践という点で評価できる。</p> <p>●ASDに関わる業務内容は教育の場での体験を加味する必要がある。自治体との連携においては、実施体制に自治体関係者を加えることも考えられる。</p> <p>●薬学研究科及び附属病院薬剤部長の役割が明記されていない。作業療法研究科の委員が多く、全体のバランスが悪いため、多職種の専門性の養成には実効性が乏しい印象がある。</p>			